

カンブリア宮殿を見て

「本当の歯科医療」とはどんなものでしょう。

「名医」とはどんな人のことでしょうか。

歯科医療に従事している人でさえ、答えに詰まるかもしれません。

もしかしたら、そんなことを考えたことがない人すらいるかもしれません。

綺麗な被せ物や立派な入れ歯を作る人が腕のいい歯科医でしょうか。

患者さんの主訴だけをさっさと片付けてくれるのが本当の歯科医療なのでしょうか。

「虫歯も歯周病もなく、生涯自分の歯で食べさせられる人が名医」番組の中での院長の言葉です。

私も本当にそう思います。

歯科医師自身、患者さんから評価されやすい「キレイな被せ物」に熱意を傾けてしまいがちです。

病気になる前の治療は一見何もしていないように見えるのかもしれませんが。

でも自分が一旦患者になれば、そもそも充填が必要な虫歯にはなりたくないですし、充填や形成が上手な歯科医師よりも、早期にう蝕のリスクを見極め、う窩が形成される前にう蝕を治療し、保存修復処置を不要とする歯科医師にかかりたいと思うはずで

私たちには、「健康な歯の価値」を患者さんたちにしっかりと伝える使命があります。

健康な歯を守り続けていくとどういったメリットがあるのかをきちんと正しく伝えられれば、歯は失えば元に戻らないので簡単に病気にしたり簡単に削ったりしてはいけないということ、健康を維持するために何をすべきなのかを患者さん自身が真に理解することができるはずで

健康な歯を守りつづけ、一生自分の歯で食事をし、笑い、会話が

できる、この価値を患者さんと共有し、それが実現できるようにする医療が、本当の歯科医療なのだと思います。

まさに日吉歯科が行っていることです。

結果がすぐ出る訳ではないですし、派手ではないし、簡単な仕事ではありませんが、とてもやり甲斐がある仕事だと思います。

番組の最後の村上龍氏の編集後記の中に、「幼少期にこんな先生に出会っていたら」とありました。

正直な感想だと思います。歯で苦労した経験がある人なら尚のこと、日吉歯科の医療を知れば、そのような感想を持つでしょう。「幼少期」からの取り組みの大切さがこの番組を通して多くの人に伝わったかもしれない。私はその「幼少期」にあたるU20医療の専門医になるために勉強しているところです。U20医療は本当に本当に難しいです。でも、この医療に出会えて、この医療を専門に出来て、歯科医師になって良かったと心から思います。

ただ日吉のU20のような医療は日本中探しても少ないのが実情です。

U20医療が広まり、健康な子供たちがたくさん育つよう、私に何ができるか、今後何をすべきか、考えていかななくてはならないと思います。

今回の番組が、

私たち歯科医療者にとっては、

自分たちが本来果たすべき「責務」を見つめ直すきっかけに、

患者さんたちにとっては、

自分の口腔の健康の大切さと価値を理解し、それを守るためには何を選択すべきなのか、何をすべきなのか、立ち止まって考えるきっかけに、
なってくれたらいいなと思います。

そして、それにより、日本人の意識が変化し、一生自分の健康な歯で過ごせる人が一人でも多くなり、そのことが、国民の疾病構造の変化や日本が抱える医療保険や医療費問題の解決の糸口になってくれたらと思います。

(予告編の「虫歯菌を0にして」というフレーズに、視聴者の方々の誤解を生むのでは。。とやや心配しました。が、歯科とは関係無い知人からは、メンテナンスに通うことの大切さや虫歯になら無いことの大切さを感じたという、院長のコメントや日吉歯科の取り組みについての感想を聞いたので安心しました。)

カンブリア宮殿感想

まず、予告編を見たときに、「虫歯菌を減らせ」をいうフレーズは非常に目を引き、多くの視聴者に興味を持つような印象があった。しかし、虫歯にならないためには虫歯菌を減らさなくてはいけないという、ちょっと曲がった解釈をされかねないと危惧した。もちろん、Dental Drug Delivery System (3DS) に代表されるように、一時的にう蝕原性細菌を減少させるような方法を推奨している先生方もいるし、う蝕予防を考えたときに、条件によっては有効な手段であるが、う蝕や歯周病から歯を守り、生涯にわたって口腔の機能を維持・発揮していくために、まず必要なことはリスクアセスメントとメンテナンスであると考えている。そのことがどのくらい伝えられるのかと思い、妙な違和感を覚えた。

実際の放送をみて、予告編で感じた違和感は払拭された。放送時間の限られた中に、全てを詰め込んで説明するのは無理があるが、それでも、生涯健康で過ごすためにメンテナンスが必須であることや、健康保険の適応でないことなど、伝えなくてはいけないことは、多くの視聴者に伝わり、理解いただけたのだと思う。

『「メンテナンス」は保険でできる』といったことが酒田市内の他院で行われているようで、実際に診療室に来院される患者さんから聞くこともあったし、セミナーに参加された先生方の発言を聞いていても、「●●県では保険で請求して良い」などといった診療報酬の不正請求がまかり通っていることが、現実の問題としてある。これは、厚労省は表向きにはメンテナンスは健康保険の対象外と言いながら、それを許しているということであり、厚労省や支払基金の姿勢を疑わざるを得ない。今回の放送をきっかけにそういった不正請求が一扫され、特に Oral Physician をめざして、歯科医療の本当の価値を伝えたいと思う、多くの歯科医師を後押ししてほしい。また、治療中心の従来型の歯科医療を善しとしている大学関係者や歯医者に治療だけを求める市民に対しても警鐘を鳴らすことになったと思う。

編集後記として、村上龍さんが述べられていること、前半は、ご自身の幼少期についてである。これは、子どもたちと歯科の関わり方であり、U20の取り組みの重要性を示唆してくれているようにも思う。今後、U20の果たす役割はこれまで以上に大きく、その成果を証明していくことが求められていると感じる。U20の歯科医療に携わる一員として、切実な思いを抱える方の手助けができる医療者になっていきたい。

欲を言えば、院長が颯爽と階段を降りてスタジオに入られる姿が見られなかったことや、スタジオでお話になった内容は編集でカットされた部分も多いと思うので、番外編としてでも拝見したいと思う。

カンブリア宮殿感想文

一昨年のプロフェッショナルでは、院長にフォーカスが当てられ、日吉歯科を知らない人から見ると唾液検査を行いながら予防歯科を続けてきた歯科医師。というようにだけ映ったのではないかと感じる内容でした。内容は素晴らしかったですが、日吉歯科を知っている人からすると次回作を期待してしまうくらい「日吉歯科はこんなものじゃない」というのが率直な感想だったと思います。

今回のカンブリア宮殿では、スタッフとともに地道な努力をコツコツと積み重ねた結果、現在の日吉歯科が酒田市民にとってどれだけ大きい存在になっているのかというのがよくわかる内容だったと感じています。スタジオでのやりとりでは院長が村上さんよりも堂々と話をしているのが印象的で、皆が聞きたいことを村上龍さんが代弁し、院長はいつものペースで歯科医療の在り方について語っている。あのやりとりの感じがすごく良かったです。保険診療が安すぎることの弊害、歯の価値、メンテナンスの価値について。歯科医療従事者からするとこれまでの歯科医療の価値（治療中心）を本来の歯科医療の価値（予防中心）に変えるには様々な壁（経営や衛生士の技量、歯科医師の器量）がある。しかし歯科医療の本質、本来の価値を理解し、あるべき姿を追求し続ける姿勢が必要である。そして、村上さんからの「いい予防歯科を見つけるポイントは？」という問いに対して「検査をしっかりと行い、自分の口腔内をしっかりと見せてくれる」という院長の返答。おそらく放送を見た患者さんはそんな歯医者に通いたいと思ったと思いますが、その受け皿になる歯科医院（確固たる診療哲学や資料採得の技術、歯科医師・歯科衛生士の力量など）がどれだけあるのかという不安も感じました。おそらく放送を見ていた従来型の歯科医院は背筋が凍るような気分だったと思います。逆に OP 医院としてシフトしている、シフトし始めている医院にはかなりの追い風になったように感じました。そして最後のエンドロール「予防医学の国民的理解と普及は、歯科に限らず、すべての医療にとって、さらに財政にとって、喫緊の課題である。正統な危機感を抱くこと、自分への将来的な投資という概念を広めること、熊谷先生と日吉歯科の成果は、歯科医療にとどまることなく、社会全体に波及すべき重要な啓蒙活動となっている」これが全てを物語っていると感じました。人々の意識を変え、口腔の健康を守り、地域に貢献し、国民に貢献し、国にも貢献する。

こんな職業は滅多にないと思います。

今回の放送で、これから日吉歯科に来る人、または既存のメンテナンスを受けている患者さんの要求は高くなるかと思いますが、地道にコツコツとより高みを目指して今以上に質の高い医療を提供できるように知識・技術の獲得、患者さんへの情報提供などをきめ細かく行っていこうと思います。